

石巻専修大学長 坂田隆 2015年頭の抱負

学ぶ環境をより良く



2015年
中には仙石線も全線開通し、大学の近くに三陸道のインターチェンジも新設さ

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。願ひ申し上げます。

学生寮3月下旬に完成

石巻では復興公営住宅への入居も始まり、東日本大震災からの復興も進みつつあります。石巻専修大学のキャンパスでも150人収容の学生寮の建設が順調に進んでおり、3月下旬には竣工致します。

学内で暮らすことによって、ゼミや研究室での活動、運動部やサークルなどへの参加がより活発になることを期待しています。また、寮の食堂にはパン工房も併設されるので、近隣の市民も含めて、学内外の皆様に使きたてのパンを楽しんでいただけます。

1月には学内にコンビニエンスストアができ、学用品だけでなく、さまざまな日用品も学内で購入できるようになり、学生諸君の生活も一層便利になります。

週末や休暇期間中も開店しますので、熱心に勉強をする諸君や課外活動に励む諸君の助けとなるでしょう。

石巻専修大学

代表電話番号
0225 (22) 7711
広報専用FAX
0225 (22) 7809

れるので、通学の便も大きく改善されます。

腰を据えた改革を行う

4月には、新設された特待生入学試験とスポーツ推薦入学試験に合格した諸君が入学します。こうした諸君をはじめとして、本学に入学してくる学生たちを丁寧に教育して社会に送り出したいと考えています。そのために、2017年度からの開始をめざして、カリキュラムの改訂作業を始めました。腰を据えた改革を行う予定です。また、職員研修の成果としてまとめられた改革提案にも教員と職員が一体となって真摯に対応してまいります。

地域と連携新しい教育

東日本大震災を契機として、地域との連携が拡大されています。これまでの活動に加えて、本年度中に複数の高等学校と包括連携協定を締結する予定で、地域の教育機関と連携した新しい教育の形をつくり出していきたいです。

石巻専修大学は大震災の被災地の最前線にあって、復興を目指す長い闘いを始めています。前例のない試みですが、こういう時にこそオール専修の伝統が輝きます。皆様の一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

2年連続決勝大会へ 山崎ゼミ 地区予選会で優秀賞

◇ 社会人基礎力育成グランプリ ◇



▲ 山崎教授（左端）とともに坂田学長（右端）に結果を報告

「社会人基礎力育成グランプリ2015」(主催：社会人基礎力協議会、共催：経済産業省)の北海道・東北地区予選会(11月30日、仙台市・TK Pガーデンシティ仙台)で、経営学部・山崎泰典ゼミのグループが優秀賞を受賞し、同ゼミとして2年連続となる決勝大会(2月26日、東京)の出

場権を獲得した。出場したのは相原拓弥さん(3年次・宮城県仙台商業高)、須藤真美さん(2年次・宮城県古川黎明高)、畠山美穂さん(2年次・宮城県登米高)、吉久幸希さん(2年次・神奈川県川崎南高)の4人。同グランプリは全国の大学生が6地区に分かれ、自分たちの取り組みや成果をプレゼン。社会人基礎力の成長や知識の深まりが審査され、優秀賞を受賞した8チーム(関東、近畿地区は2)が決勝大会に進出し、最高賞である「社会人基礎力大賞」を目指す。4人は「シャインズシヤドウ」被災者を支える大きな影」をテーマに発表。「被災地をつなぐ」と、震災を風化させないことを目的にゼミで取り組んでいる「リンクハーツプロジェクト」「復興ボランティア学ワークショップ」の2つの活動について報告した。チームを支えた相原さんは「心地よい緊張感のなか、自分たちの活動を発表できたことは、刺激になった。誰もが経験ではなく、貴重な時間を過ごすことができた」と振り返った。他のメンバーも「他チームの発表や内容を見て学ぶことが多かった」「(畠山さん)、「分かりやすく物事を伝えるのは難しく、今までにない勉強になった」(須藤さん)、「すべてを出し切れなかった。この経験を全国大会で生かしたい」(吉久さん)と感想を述べた。

自転車の分解組み立て学

理工学部機械工学科の専門科目「工作実習Ⅱ」



▶ 丁寧に自転車を組み立てる学生たち

習は12月5、12日の2日間、工作試験センターで実施され、学生たちは日ごろから利用している自転車をよく観察し、各部品の構造や取り付けの順番などを記録。元通りに立て実習が行われた。実意を払って作業した。

この科目は同学科の1年次生全員が履修し、実習を通して機械工作の基礎技能を学ぶ。ネジ加工など工作機械を用いた実習やロボットの設計・製作も行われ、学生たちは工作に対する理解を深めた。

保育士招き教材研究

人間教育学科2年次生9人



▲ 作成した保育教材で実演

人間学部人間教育学科 実習に向けた教材研究の2年次生9人が、保育「行った。3年次科目の「保育実習Ⅰ」に向けた事前指導(全15回)の一環として開講された講義で、講師に石巻市立井内保育所で働く現役の保育士を招き、実際に子どもたちが親しんでいるわらべ歌や教材について学んだ。教材研究は2回実施され、12月10日の第2回では、牛乳パックなどの廃材を利用した教材作りを行った。

学生たちは色の組み合わせなどを考え、創意工夫を重ねながらコミカルに動く教材を作成。完成した教材を用いて子どもの心をとらえる授業を体験した。

パイナップル缶詰作りに挑戦 食環境学科1年次生



▲ パイナップルの芯をくり抜く

12月4日、理工学部食環境学科1年次生がパイナップルの缶詰作りに挑戦した。これは同学科の必修科目「食環境学実習Ⅰ」の一環として行われたもの。参加した学生18人は鈴木英勝准教授の指導のもと、パイナップルの下ごしらえから缶への封入・加熱殺菌まで、一連の工程を体験した。同科目の目的は、体験的学習を通じて食と環境に対する学生の関心を高めること。環境について

圏域懇を開催

「石巻専修大学と圏域首長・議長懇談会」(財石巻地域高等教育事業団主催)が12月2日、本学で開催された。坂田学長をはじめ各学部長、研究科長らと、石巻圏域(石巻市、東松島市、女川町)の自治体の市長、町長、議会議員が一堂に会し、大学と地域自治体との連携・協力体制について意見を交わした。本学から



▶ 大学の取り組みを報告する坂田学長